

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	国際教養学部	職名	教授	氏名	渡辺 恭人
研究課題	外国語学修における授業外自主学修の課題と支援環境の検討				
研究キーワード	外国語学修、自主学修、 TOEIC	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究では、外国語のうち英語を対象として、外国語の授業外での学修を補完する、自主学修支援システムについて検討した。本学部の英語教育における授業外学修については4技能のうちスピーキングとリスニングは成長が見られるがリーディングとライティングは学修方法がわからないといった課題が明らかになった。自主学習支援に関しては、教材提供、出題、解答、結果分析などの必要な機能とその要件を検討した。国際教養学部の英語学修では、講義は教科書とLMSを活用して進められており教材のデジタル化は一部となっている。海外研修の要件レベルに達していない学生を対象に、学生の自主学修において、必要となる学修内容の議論を行った。TOEIC L&R テストの教材を Microsoft forms と teams で利用できるようにし、対面とオンラインを併用した勉強会を実施しての実験を約2ヶ月行った。勉強会は週1~2回、1回あたり3時間程度で授業と演習を行い、復習と次回演習の学修を課した。約2ヶ月後 TOEIC L&R テストで被験者は全員基準を超えており、1名はその後も自主学修を続け、成績を伸ばした。</p> <p>本研究では、自主学習支援を目的とし、自主学修をエンパワーするために勉強会という形式で実験を行った。学修効果として成績の向上は見られた。勉強会はモチベーションの向上と持続には必要な形式であるが、教員の負担は大きく、最初のきっかけを最小限として自主学修に繋げる仕組みの検討が必要である。学修システムとしては、単なる教材提供のみならず、本人の能力や学習状況に応じて、弱点や補強点などの提供による学習指導や最適な教材を提供など個人に対応した学習システムの検討が今後の課題である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 特にないが、検討した要件や学習支援の仕組み、評価実験などについて追加検討を重ねて、論叢、紀要への投稿を行いたい。</p> <p>3. 主な経費 TOEIC L&R の教科書や問題集など、英語学修に関する書籍文献や、そのデジタル化に必要な機器等を消耗品にて入手し使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし</p>					
(本文は2ページ以内にまとめること)					